

刊夕 日六月十

常磐每日新聞

定額 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元
 廣告料 五字十二字 一行五元 五字以上 一行三元
 日曜 祭日 休刊
 發行所 常磐毎日新聞社
 印刷所 常磐毎日印刷株式会社

成辰の覺書

(九)

漆原市郎左工門手記

平陽老人

一十月八日小銃武日挺余仙藩へ差出し同所より其筋へ差出に相成候
 一同日九夜九ッ過仙藩目付熊谷齊より呼出に付山田彦太夫差出候處以書取達安藤鶴翁殿始三藩江之御達右に面々家老呼出可相達の所當藩より取次頼遣當藩へ依頼之事故別段に右書付御渡候譯に候間右之趣を以其家江御首尾相成度候事
 一三藩何分輕裝微行にして東京江可罷登就謹慎可罷在事
 一右家族は本國本國江漸々可歸事(奉書半切)
 安藤鶴翁
 右降伏謝罪被問召届東京江被差出候條着之上謹慎奉待
 天裁候様
 御達有之候事
 十月
 別紙 參謀 寺島秀之助 河田佐久馬
 右兩參謀江被相付明日にも御登り可被遊候事
 一十月十日參謀局江重役御呼出に付漆原市郎左衛門片倉屋敷江罷出候處當局

より呼出に無之旨には御城中江罷出横田勘平を以御使番江相届候處參謀衆町宿外人屋江被引候に付同所江鹽澤武治同道就山田彦太夫儀御隠居様明朝御出立之處壹兩日御猶豫願に罷出候間一同外人屋江罷出參謀木梨清一郎殿江伺候處明朝御出立之儀見合御聞濟に相成候間明日委御使番より可申談事之有候間重役之者城中江罷出候様木梨殿被申聞候江付夜九ッ時高松寺江引取候處片倉屋敷參謀局より重役之者呼出來候に

【晚】くす煮：たこくす煮に相伺候處不苦旨御達就而は食料等之儀如何可仕哉是又相伺候處同所民政局被願出旨御使番に申聞候旨實衡平申出候に就漆原市郎左衛門小山又左衛門桑原重左衛門外廿六人先て出立取極同十五日仙臺出立十九日平着拾五町目付止宿仕村上平右衛門服部直人共談合之上民政局江伺届等仕御家中之面々舊御領分村々寺院へ謹慎割附共夫々引合取計申候其後
 大御與様御高々様に茂御着被遊蕩荒川村龍門寺假御住居被遊候
 七月迄之書類御本凡役所に差置七月九日仙臺江出立仕候に付燒失に相成巨細認兼候凡之處畫取差上申候以上

外科 一般科 醫學博士 渡部 義夫
 小兒科 女 醫 渡部 きい子
 内科
 入院應需 渡部 外科
 平町田町大通り(電話二七七番)

一本日質品
 太陽顏ソース
 御存知ですか!
 太陽顏ソースの快味を!!!
 ◆是非御試下さい
 平二丁目(電話三三三番)
 小川屋本店
 平各販賣店

十二月 (完)
 地相 家相 人事 定額
 平島野 前易澤 堂斷定 所象
 十月七日丙午六白先勝收
 【白】外見は吉なるも内心に苦勞の生ずる日金融は良し水火の難注意南北凶【二黒】營業取引等は進て吉眼病頭痛と水火の難に注意【三碧】古きを捨て新金に進
 んの念凶病氣怪俄注意未申丑寅凶【四綠】金錢の爲に喜悅あるは直に憂ひ生ずる事あれば口舌に注意東西凶【五黃】金談縁談共に目上の信を得て吉となる戌亥と辰巳は凶【六白】運氣滯滞の日なれば萬事進むに凶退き守るに吉なり【七赤】金談や縁談に奔走してきを吉得る日戌亥と辰巳は凶【八白】營業繁忙金融は良く萬事吉只家内に口舌注意東西凶【九紫】金談や病氣に心配の起る事あれば萬事注意未申丑寅凶

中村齒科醫院
 平町 鍛冶町七

品質第一
 電話二六八番
 平搾乳所
 平町・九品寺前
 磐城セメント會社特約店
 久金屋商店
 磐城平町五丁目 電話九番九九番
 □良品廉賣に勝る商略なし
 □確實敏捷はの生命なり

紅葉の秋
 山遊びに... 旅行に...
 これだけはゼヒ一個
 断然良く寫る
 いづみのMSカメラ
 良く寫す寫真無料御指導—
 初心の方又は今迄でお撮りになつて良く出來なかつた方は御遠慮なく御出下さい断然良く寫る寫真無料御指導致します
 各種カメラ 平 驛 前
 特約店 いづみや玩具店
 カメラ部

平市建設の上に 都市計画法實施

昨日の町會に箱崎技師報告 町議に一考を求む

都市計画法は從來市にのみ適用されて居た處今回の改正に依つて今後は町村に於いても其の必要ありと認められれば

内務省の指定に依つて

同法を實施する事となつた爲め差當り平町の如きは市に準ずる町として當然是が適用を見るに至るべきに依り青沼町長は先般内務省

都市研究主催の都市計法講習會に土木技師箱崎清一氏を

出席せしめその報告

書を昨日の町會に於いて各町議に配布し一考を望む處あつたが早晩同法實施の上

災害復舊の工事が 多大の進捗を見る

残工事は來月中竣功

平土木監督所管内の本年度災害復舊縣營工事は道路八橋梁七、河川二十五、港灣六合計四十六箇所總工費十萬圓の外に同工事の縣費補助に依る町村工事は八ヶ所工費二萬四千七百八十六圓の多數に及んで居るが着工以來所員の努力で現在迄に縣營四十六工事のうちに既に四十一ヶ所、補助工事は八ヶ所のうち六ヶ所が夫々竣功し目下は入遠野、江名、磐崎、泉の各縣營工事及び田人、江名の縣補助工事を残すのみとなり是等も十一月中には全部竣功する豫定である

區長決定

才植小路

平町才植小路區長色川勝三郎、同代理味岡子之松の兩氏は舉町一致の推薦に依り昨日の町會に於いて異議なく是れを承認した

大工町踏切

愈よ猛運動

過般平町議佐々木龍若氏提唱に依る大工町踏切の改修請願委員は井上、野崎、萩原の三縣議及び地元佐々木、多田井兩町議が囑託され其筋に猛運動を起す事

警中生が 左側通行

卷ゲートルで

着任以來専ら校風の刷新に努力中であつた小檜山校長は去る一日より平常全校生に對し卷ゲートルを着用右側通行を厳守せしめてゐる

平窪村の工事に 平町の失業者夫出働

平職業紹介所では近く着工される平窪村地内夏井川改修工事は平町の失業労働者を就業せしめるべく交渉の結果五十名採用の承認を得たので來る九日より十二日迄同所で登録を行ふ事になつたが今回の登録希望者は未だ一回の登録もしない者に限り左記資格を要する

- 一、土工作业に堪へ得る者
- 一、平町に一定の居所を有する者
- 一、區長の證明書を持参する事
- 一、現在労働手帳を有しない者

職員競技

職員一同は來る十三日の秋季運動會にリレーレース及び置換競走を行ふがメンバーは左の如くである

- △リレーレース(紅)玉手 丹野 根本菊 仲村 上
- △リレーレース(白)黒木 川 鈴木 藤(白)黒木

第三區児童 出場者決定

教育協議會では昨日午後一時より平第一校で委員會を開き來る二十九日警中グラウンドで開催される郡下小學校児童競技會の出場選手を

左の如く決定した

- △五ノ女(五十米)平三白 土貞子 同今野コト 平二渡邊イノ(四百繼走)平三チム 平二チム
- (ボールスロー)平二長瀬 喜美 赤二佐藤ハル子 平二志賀勝代(走巾跳)平二大木アサ 同飯塚さと子 好高橋シゲ △五ノ男(百米)好高柿崎金吾 平三久保木清次 平一齋藤義孝(四百繼走)好高チム 内三チム 平三チム(走巾跳)好高阿部廣親 平三今田實(ボールスロー)内高神永今朝男 平一佐藤木 平三金成柱一△六ノ女(百米)平三猪狩フヨ 平二蛭田カヨ 好高石塚マサ子(四百米繼走)平二チム 赤二チム 平三チム(走巾跳)平二正木千鶴子 飯野須藤初代 平二森山文字(ボールスロー)平二長谷川喜美 同北村琴子 小川白井君子 △六ノ男(百米)内高鈴木國雄 好高田口榮藏 平一佐藤喜一(四百米繼走)内高チム 平一チム 好高チム(走高跳)内二阿陪幸太 平一佐藤満夫 好高本間進(ボールスロー)平一田中忠太郎 同關内弘吉 内高鈴木友三(ハドル)内高高橋正次 内三伊藤一郎 平三山崎茂次△高一ノ女(百米)平二高野弘子 赤二桑原千鳥 小川大平タカ子(四百米繼走)平二チム 赤二チム 内高チム(走巾跳)平二今田操 飯野阿部スミ 好高矢吹ヨシ子(ボールスロー)平二中村春子 赤二松本カネ 内高深谷ハツ △高一男(二百米)内高中館一男 同濱田正治 平一佐藤喜一(八百米繼走)内高チム 好高チム 平一チム(三段跳)好高田中清内高赤倉實 平一塚本慶治(ボールスロー)平一吉田昌夫 好高平澤藤美路 平一縁川重春(ハドル)平一先崎清一 内高渡邊信一 同下遠野明△高二女(百米)内高鈴木フミ 平二富岡文字 同矢島ノブ(四百米繼走)平二チム 内高チム 赤一チム(走巾跳)平二尼野トミ 同富岡貞子 内高大越キヲ(ボールスロー)赤二平野タマ 平二篠原タミ 内高柴田圭子△高二男(二百米)好高佐藤強内高菅野勇 平一瀬戸利夫(八百米繼走)平一チム 内高チム 好高チム(走高跳)小川萩野高好高熊谷春雄 平一井上朗(ボールスロー)内高豊島徳松 赤一木口清明 平一小椋次男(ハドル)内高伊藤二千男 同木下勉 好高前田清治

平町人事

△南町二五 青柳康氏二女
△彌宜町六八 高田平八郎
△回死 亡
△長橋町六二 里吉氏系小野吉雄(四ツ)

門專 科病柳花外

院醫科外村木

際橋目丁五町平
〇九三話電

美味!
芳醇!

宗正らひた

山崎合名會社
電話一〇番

御愛乗下さる
シボレーに!
そは先驅者なり

退職した病訓導が 給與額を全部寄附

平町の小學校費を指定 町當局熱謝

既報去る九月八日付病氣精養の爲め退職となつた平第二小學校訓導星德氏は今般休職中の給料に
相當する金額二百六十圓を平町小學校費に指定寄附され第一回分として百二十圓を納入したが同氏は相馬郡石神村大字高倉字東畑の出身で本年三月平第二小學校に赴任五年の三組を担

任中間もなく急性氣管支炎に冒され目下仙臺の大學病院に於いて治療中郷家には相當資産あり
病軀其職に耐えず辭職するに至つたに拘らず休職中の手當を受けるは本意でないといふ今回の寄附を申出たものにて町當局は此の寄附を行爲を喜び近く懇篤な感謝状を贈ると

中野氏の訴訟に 平町も對抗参加

戸數割の異議申立事件に
平町新川町中野勇吉氏は町税特別戸數割賦課に關し縣參事會と異議の申立の訴願を爲し否決された爲め縣參事會を相手取り行政訴訟を提起したので平町も對抗上同訴訟に参加申請を爲す事となつた次回の口頭辯論は來月十六日

青訓聯合

評議員會開く
石城郡青年訓練所聯合會では明日午後一時より平第一校に於いて評議員會を開き左記の協議ある由
會我會長及び仲村副會長

運動會に 老人慰安

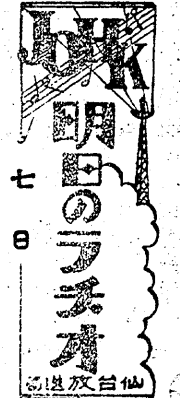
飯野村にて
石城郡飯野小學校では來る十日午前七時より校庭に男女青年團及び青年訓練所生聯合の秋季運動會を催し七十以上の老人を招待し茶菓を饗應して慰安すると
遠藤教諭來任 過般石巻商業學校に榮轉された

籠の鳥に 月一回の慰安

平署が肝煎りとなつて
小料理屋に酌婦をして居る模様であると平署に捜査方を願ひ出た

姉妹が 誘拐されて

河沼郡日輪村字八田代渡邊惣太郎長女チヨノ(三)及び同人妹チヨミ(八)の兩名は去る三日同村渡邊丑喜の甘言に誘はれて家出したが小名濱築港工事を當て込みの



明日のラジオ
今夜も明日も北東の風晴曇半す

今晚の部
後六、〇〇(子供の時間) 國語讀本の讀み方「さのこ取り」お話、神保格朗讀、東京高等師範附屬小學校兒童
後六、二五 基礎佛語講座
後七、三〇 講演「徳川時代の經濟と文化」大阪商大教授經濟學博士 菅野

山崎夫人の
一週忌供養
平町古鍛冶町山崎與三郎氏のたけ子夫人逝いて既に一週忌、けふ秋雨煙る性源寺に於いて同一家を始め木村元代議士其他多數來列嚴肅な供養を營んだ

榮養改善の講演
本縣の中田技師が來郡
平署衛生係では縣衛生課と協力して來月二日より八日迄の榮養改善デーには榮養知識普及の爲め縣の中田技師を以つて管内に於ける從業員百名以上の工場及び會社で講演會を催す事になつた

米穀道路許可 平町
米穀米組合所有の田町米穀

明日の
前六、三〇 基礎獨語講座
前九、一〇 料理献立「馬鈴薯のオムレツ」河内捨松
前九、四〇 諏訪神社祭禮實況(諏訪神社踊馬場より中繼)
前一〇、三〇 婦人講座「芝居の味へ方」西村普一
後〇、〇五 管絃樂「スラブダンス」外三曲 實塚オーケストラ 揮指高木和夫
後一、五〇 野球試合實況 東京大學野球聯盟リーグ 戰 慶應立教(神宮球場より中繼)

平商出場辯士 平商
辯論部では來る二十九日福島高商講演部主催の關東北北海道中等學校辯論大會に五年山家正君を出場せしめると
紺屋夜警詰所 平町
紺屋町火防組合にては平署跡火の見櫓の後方二坪の町有地を無償借受け夜警詰所を建設する由

第一運動豫行 平第一
小學校では明日放課後職員會を開き來る十三日開催する秋季運動會の打合せをして九日には豫行演習を行ふと
平職業紹介所報告
回人を求める方
△農夫 四十迄 委細面談
△飯野村某
△外交員 四十五迄 尋卒
△割給(平町某)
△倉働 三十迄 尋卒 月

看護婦急派
の求めに應
じます
平町南町
平看護婦會
電話三〇七番



【禁無断轉載上演映畫】

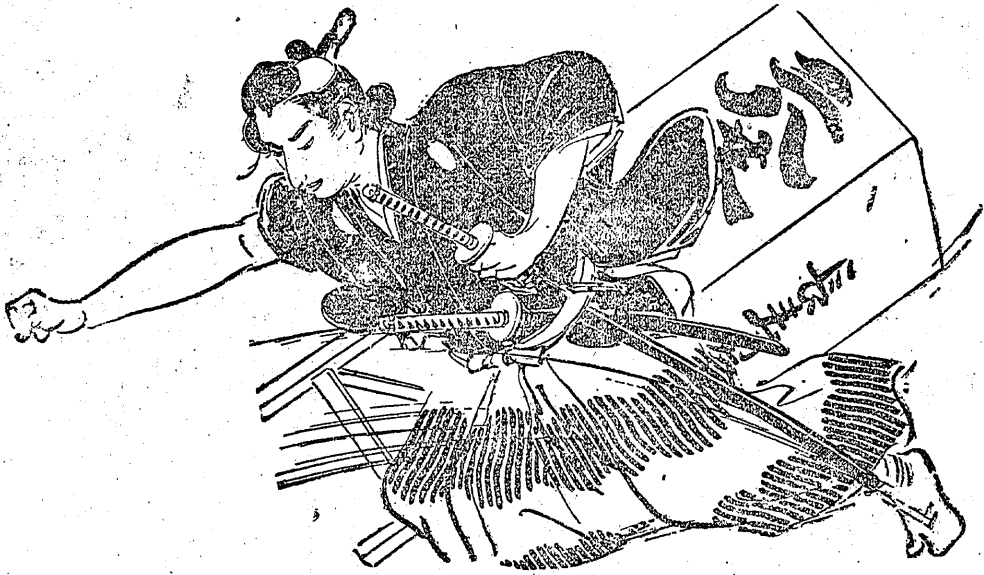
寶井馬琴演
山本英春畫

第五十八回 血に飢ゆる村正
亭主隠まつて呉れ

次郎吉が留守でも初めの中は職人が居ましたから何うやらやつて居りましたが終ひには給金も拂ひませぬゆゑ職人も居附かずおきくがそばを打つたり盛り出したたり一人でやつて居りまするので客は落して下りなつて働いても女一人でございますから思ふやうには参りません、次郎吉が歸つて來ると泣いたり頼んだりしてどうぞ家に居て呉れと云つても中々聞入れず歸つて來りやア些かな賣溜でもさらつて行くやうでござい

ますから宛然今では敵同志どうしたものだらうと未越し方が案じられて夫も只ならぬ身体ゆゑ子供でも生れたら次郎吉は料見も直らうかと取越苦勞をして居りました夕まぐれモウすつかり取られて了つたと見えて詰らない顔をして歸つて來た次郎吉は歸り早々

次「おきくや何故行燈を點けねえだ今時分に明火でも入れて景氣をつけなくつちやア食物商賣は客が來ねえ寝ても居やアがつたんだらう」
菊「次郎さん寝て居らう」



今まで魔がさして手前にも苦勞を掛けただけで無いが意見の總仕舞でモ一是からは何處へも出ねんで稼ぐ

看板を出したものでございませぬ、次郎吉は看板へ明火を入れるお菊は澤山もない蕎麥粉をまゝで支度をし

ら然う思つて居ねえ」
菊「真正かえ次郎さん實は田舎の親父の所へ手紙を出さうと思つて書て置たが前さんが然ういふ氣なら手紙は出さずに置きませう」
次「夫伏の親父の所へ手紙なんぞを出されて親父でも出て來た日にやア仕方がねえ手紙なんざア、燃して了つて呉ねえ」

と云ひながら次郎吉は二八蕎麥と書いた門行燈を出しました今では餘り見掛けませんが昔は皆道路の妨害にも拘はらず表へ足郎の

て居りました俗にいふ貧乏人の節句働きて次郎吉は家の掃除などをして居ると今明火を點たばかりの看板へ突き當つたものがあるので行燈は倒れてしまひ途端に明火も消えた様子
次「此の篋棒めえ目を明いて歩きやアがれ大きな看板に明火のつかで居るのが解らねえのか」
劍突くをくはせる途端に這入つて参りましたのが十八九とも見えませぬ侍でございまして奥小姓でも勤めて居るといふ風彩、色は眞つ青になり大小の柄を抱え跳足でございませぬ侍「誠に疎勿をいたして相濟まんが勘辨をして貰ひたい就ては少々災難にあつたもので今跡から追つて來る者があるがどうか亭主何處ぞへ暫時かくまはつて呉れませんか」
といふ様子をジロリと見た次郎吉も只の鼠でございませぬゆゑ
次「然うですかえ頼まれりやア満更嫌ともいはれませぬまい此方へお出でなさい」と自身に侍の手を引いて物置がございませぬゆゑ其の物置へ案内を致しました然し明れば直ちに露顯をするゆゑ
次「モシ且那少しの間だ我慢なさい」
と侍を物置の隅へ寝かして其上へ空俵やら藁やら四五枚掛けましたので物置を明けても知れない様に致しまして再び店へ出て
次「おきくやお侍が助けて

呉れと申すのはよく／＼の事だから物置へ入れて置いたが此鹽梅ぢやア屹度追手が來るだらう萬一家へ來て何を云つてもお前は黙つて居ねえよ俺が好い様に扱つてやるから」
と云つて居るところへ侍三四人が長壽庵の家へ這入りました何れもおつ取刀中には襷を懸けたのもあり木太刀を下げて居るものもございませぬ
次「エー入らしやい何を上ます出來ますものは天獄羅に卵とぢおかめにや葱南蕃……」
甲侍「コレ、我々は蕎麥を食ひに参つた者ではない只今十八九に相成る小姓風の侍が参りは致さんか夫を聞きに這入つたのだ」
次「ヘエアノ跳足で大小を差して色の白のお侍でございませぬか」
乙侍「夫だ夫だ」
次「夫アね今私が看板へ明火を入れて居ると何處から飛んで來やがつか突當つて行燈を引繰返したから劍突くを食はしたら謝つて廣尾の方へ参りました」

一册の代金で御希望通りな五册の雑誌が自由に讀める川崎巡回文庫 電六三〇番 (申込次第規則書呈)

味覺の秋を楽しみ得る
香氣の高い松茸
料理を始めました
出前 迅速 錦水
電四五四

内科、小兒科、花柳病科

藤沼醫院

入院需應

平町紺屋町 電話五〇七番

産婦人科 院長 木村寅次郎
外科 醫學博士 内木宗八
藥局 藥劑師 立番彌一

平町新川町十九

入院隨意 病室完備 木村病院
電話一六四番

玉屋洋品店
平町田町通電話六五六番